

総合評価落札方式の技術提案評価型(S型)における改善方針について

前国土技術政策総合研究所 正会員 ○大野 真希
 国土技術政策総合研究所 正会員 小川 智弘
 国土技術政策総合研究所 富澤 成実

国土交通省技術調査課 竹下 正一
 国土交通省技術調査課 正会員 三輪 真揮

1. はじめに

国土交通省直轄工事では、平成17年4月に施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の基本理念に基づき、価格と品質が総合的に優れた契約がなされるよう総合評価落札方式の適用拡大を図り、平成19年度以降ほぼ全ての直轄工事で総合評価落札方式を適用してきたところである(図-1参照)。

しかし、直轄工事で総合評価落札方式が浸透していく中で、競争参加者・発注者の負担増大や総合評価の理念からの乖離といった課題が顕在化してきた。これらの課題に対応するため、国土交通省は総合評価タイプの二極化について、平成25年度からは全国的に本格運用を開始した。

国土交通省技術調査課と国土技術政策総合研究所(以下「国総研等」という)では、地方整備局等(北海道開発局、沖縄総合事務局含む)の総合評価落札方式適用工事を対象に、二極化後の動向を含む実施状況等に関する調査・分析を行い、「総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会」(座長：小澤一雅 東京大学大学院工学系研究科教授)(以下「懇談会」という)を設置して議論を重ねている。

本稿では、総合評価落札方式の適用工事に関する入札・契約データを基に、技術提案評価型(S型)における技術提案の評価結果に関する分析を行った結果

をまとめ、課題の抽出と改善に関する提案を行う。

2. 技術提案評価型(S型)の課題について

技術提案評価型(S型)は、専門的な技術力・マネジメント力を有する民間企業に対して施工上の工夫に係る技術提案を求めることで、価格と品質が総合的に優れた成果(工事目的物)を期待する工事に適用するものである。このため、発注者側も技術提案を適切に審査・評価するための体制を構築するとともに、民間企業の持つ高い技術力を引き出すための技術提案のテーマ設定等に努めてきたところである。

しかし、設定するテーマは、工事目的物の品質に特化した「工事目的物の性能・機能の向上に関する技術提案」を求めることが多く、標準的な仕様の変更を伴わない技術的工夫に関する内容であることから、競争参加者の工夫の余地等が限られ技術提案が類似化してきた結果として以下の実態が明確となった。

- ①落札者と非落札者の技術評価点の得点率の差が経年的に縮小傾向にあり、一定レベルの高い技術水準を持つ競争参加者の提案に点差が付きにくくなっている。(図-2参照)
- ②技術評価点1位が複数者存在する工事が存在。

上記の課題に関し、懇談会の議論でも「改善方針の検討が急務である。」との意見が出されていた。

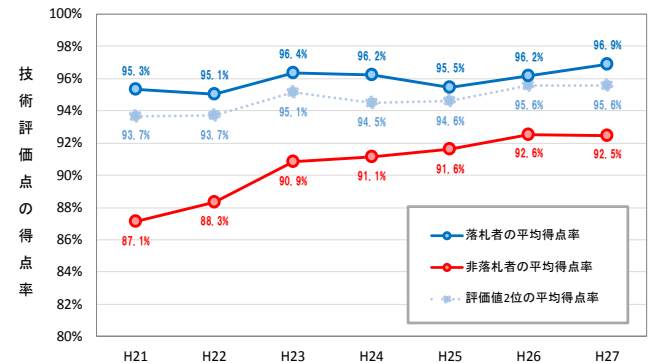
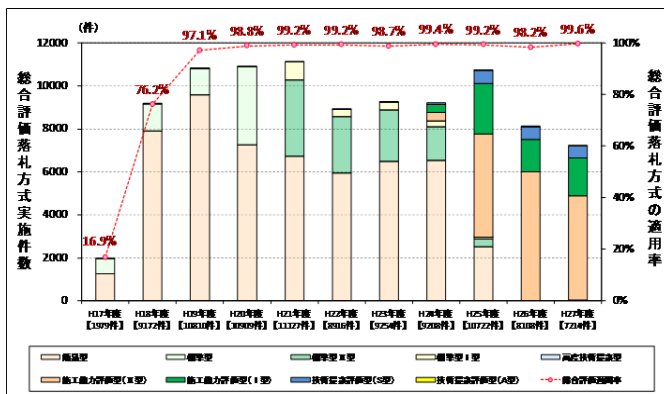


図-1 年度別・総合評価タイプ別実施状況(適用率・件数)

図-2 落札者と非落札者の技術評価点得点率の推移

キーワード 調達問題、総合評価落札方式、技術提案評価型(S型)

連絡先 〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地 国土技術政策総合研究所 TEL029-864-2211

- ①「上位間の点差」の付き易さを表す指標……………競争参加者に占める1位同点者の割合
 - ②「上位と下位の点差」の付き易さを表す指標……………最高得点者と最低得点者の点差の傾き※
- ※グラフ横軸の競争参加者間の間隔を0.01として最高得点～最低得点の分布を近似式で表した場合の傾き(絶対値)

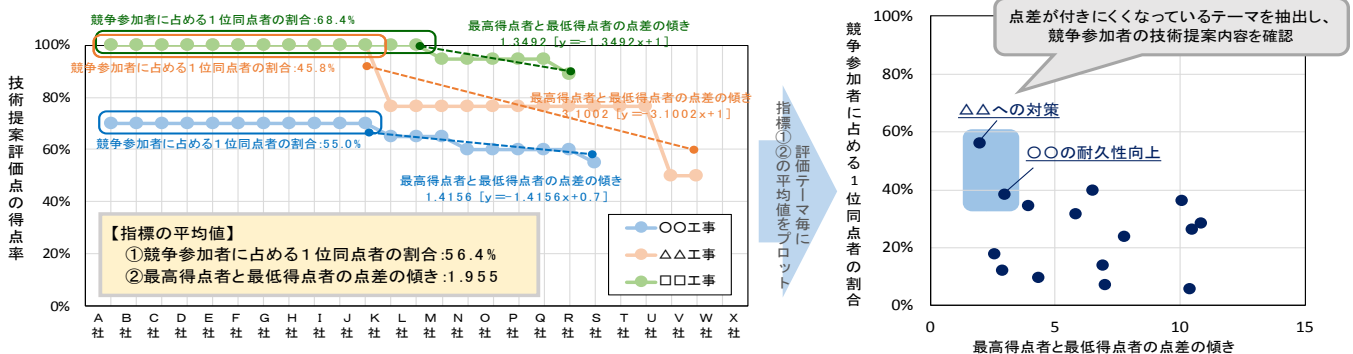


図-3 技術提案評価型(S型)における技術提案評価結果に関する分析方法のイメージ

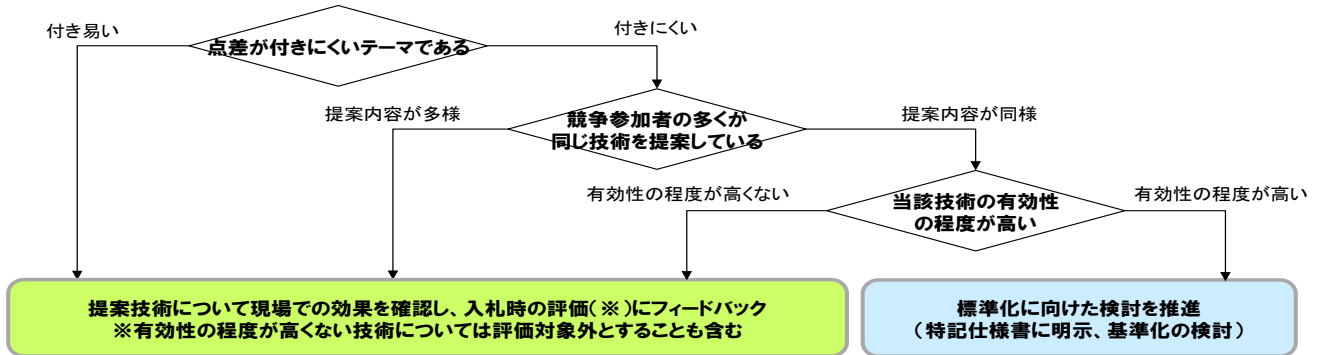


図-4 技術提案評価(S型)の改善方策のイメージ

3. 技術提案評価型(S型)の改善案について

技術提案評価型(S型)において、前述の課題が発生している要因は、発注者が設定するテーマと、競争参加者から提案される技術がパターン化していることが考えられる。この状況を改善するために国土交通省は、技術提案の評価結果の分析を行い、技術提案評価型(S型)の改善に向けた取組みスキームを検討した。

3-1. 技術提案評価結果の分析方法について

技術提案評価結果の分析手法とは、まず図-3に示す折れ線グラフをテーマ毎に作成し、そのグラフから「競争参加者に占める1位同点者の割合」と「最高得点者と最低得点者の点差の傾き」を指標として読み取り、プロット図に各指標の落とし込みを行う。続いて、プロット図に「1位同点者の割合が高く、点差の傾きが小さい領域」を設定し、その領域にプロットされたテーマを改善が必要なテーマと位置づけるという手法である。

3-2. 技術提案評価型(S型)の改善方策について

図-4に技術提案評価型(S型)の改善に向けた取組みスキームを示す。基本的には、3-1で改善が必要とされたテーマに関する技術提案について多様性の

確認や現場での有効性を検証し、有効性が高い技術は標準化に向けた検討を行い、高くない技術は検証結果を入札時の審査・評価にフィードバックすることで評価基準の改善を図ることとした。また、この取組みにより、有効性が高く、かつ、提案頻度が多い一般的となってきた技術を標準化することで、工事目的物の品質が高められるとともに、新たな技術提案の余地が生まれ、より企業の優れた技術力を活用した公共工事の品質向上が期待できる。一方、これらの取組みを進めた上で、依然として点差が付きにくいテーマは、以後の入札では設定しないことも視野に新たなテーマの設定等、今後検討が必要であるとする。

4. おわりに

国総研等では、今回の取組みについてのフォローアップを行い、その効果や課題の検証を行うことで総合評価落札方式の更なる質の向上を目指す。

最後に、今回の分析を行うにあたり、各地方整備局の方にはデータ提供等、多大なご協力を頂いた。ここに深く感謝の意を表す。